入選作品

おもて

きとうよしお

陶太とつねは
幼なじみ
二人とも
両親がいない

一緒に行く

じっちゃん

遅くならないようにな
わかってる

気をつけてな

見て!!

もう
行くよ

え

つね

わあっ
じっちゃんに焼いてもらったんだ

急がないと……暗くなって来たよ
へへっ

待って
ははは

待ってったら

あっ
どうした

とれちゃった
髪結わないとね

この辺なんだけど

暗いから…明日探しに来ればいいよ

ぽっ
ぽっ

雨

この辺……

ぷちっ
あ

玉屋の助座
倹約家で
大そうな金を
溜め込んでいる
お

一人暮しで
人付き合いは
殆どなかった
大変じゃ〜

家族は？
美人じゃ……
いえ……
……

…でも
ずっといて
くれないか

……いや
いいんだ
私なんかと
…………
そんな…
…恩人です

そして
つねは
陶太のことを
話せないまま
助座のそばにいた

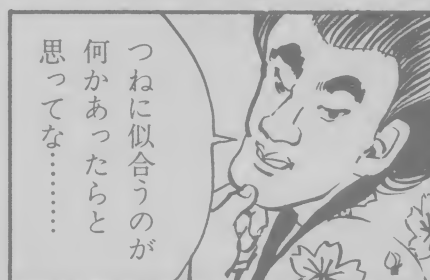
女房にどうだ
もったいなくて…………
お

これは倹約家の玉屋さんでは…こんなとこにゃ用なしでしょうが…
ましてここにゃ女の飾物しかないだろさ…ははは…

つねに似合うのが何かあったらと思ってな………

つね!!

嫁さん!!
やめとくわ わしの嫁さんの美しさには
どんな飾物も色あせてしまうでな

玉屋の……嫁さんもらったってか
どこの娘じゃい
ははは

それから数年

陶太は壺や徳利を
売り歩く傍で
つねを探し続けた

年々美人に
なっていくな
ほんとに玉屋にゃ
もったいないわ

陶太は
毎日近くの
稲荷に来ては
つねを見ていた
つねは日に日に
美しくなっていった

家のまわりには
うわさを聞いて
集まる男達の
絶えることはなかった

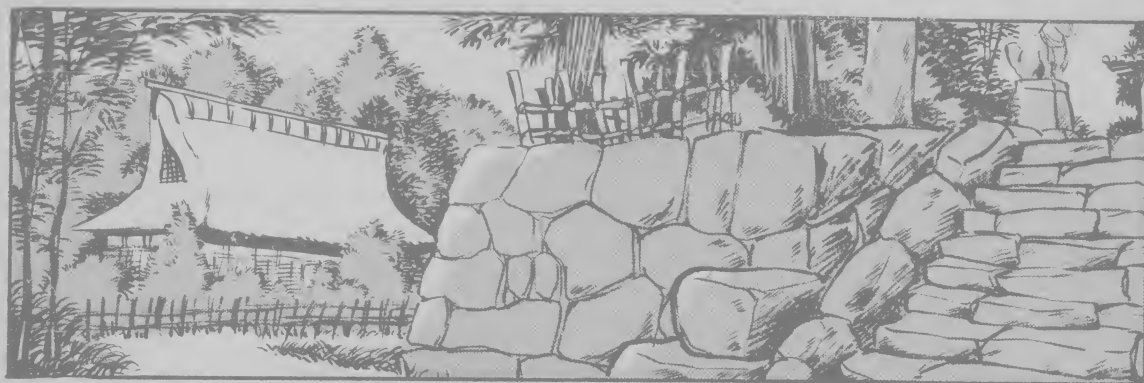
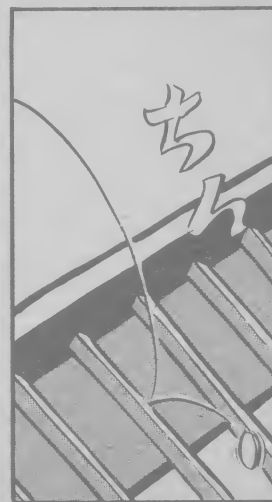
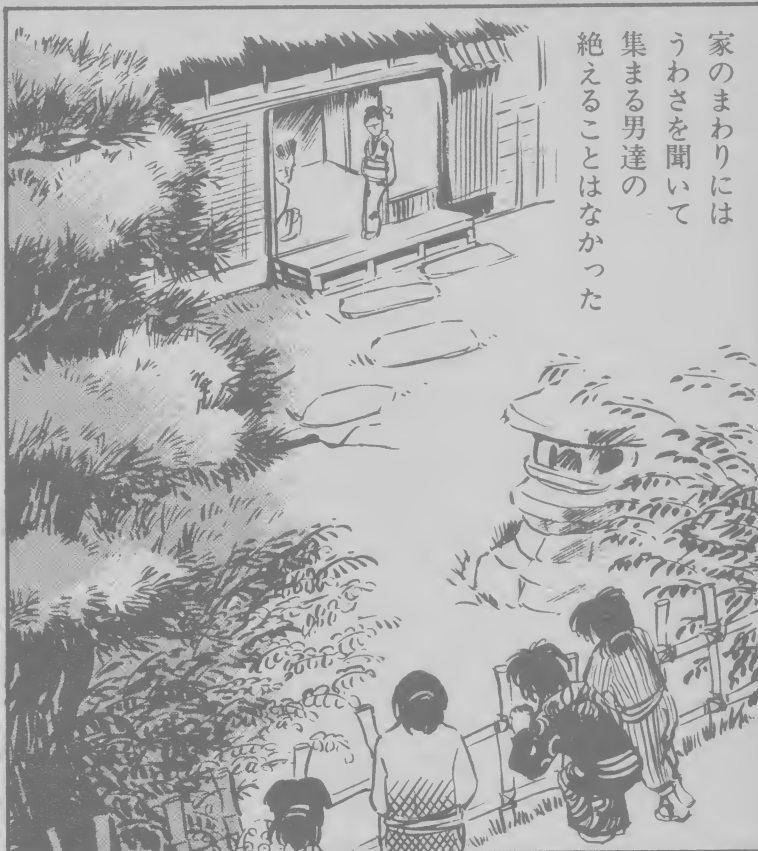
心配だ

このままもっと
美しくなって
いったら…

ちん

勿体無や
…いや
初めてお頼み
申します

どうか
いい知恵を
授けて下さい

心配でたまらんのです
つねがどんどん美しくなるのが…

い…いえでも　つねがもっと並の女なら男達だって騒ぎはしないだろうし…
わしゃ奴らみたいにつねの器量に惚れてるわけじゃないから…

お前はつねが醜くなった方が良いというのか
誰

わかったあすの朝ここに徳利が置いてある中の薬をな毎日つねに飲ませるのだ
は…はい
…

翌朝

やや
ほんとの事であったか

私の顔変じゃ
ありませんか

利いた

もう少し
続けよ…

美人じゃ
なくなったな
普通の女と
変わらん

変です…

もう
いいだろう
きゅっ

しかしつねは
醜くなっていった
薬はもう
やめたのに
………
助座さま
う
お願いです
もとに逆して
下さい!!
薬は止めました
稲荷さま
〜〜〜〜!!
し
ん

絵に描けないほど
醜い

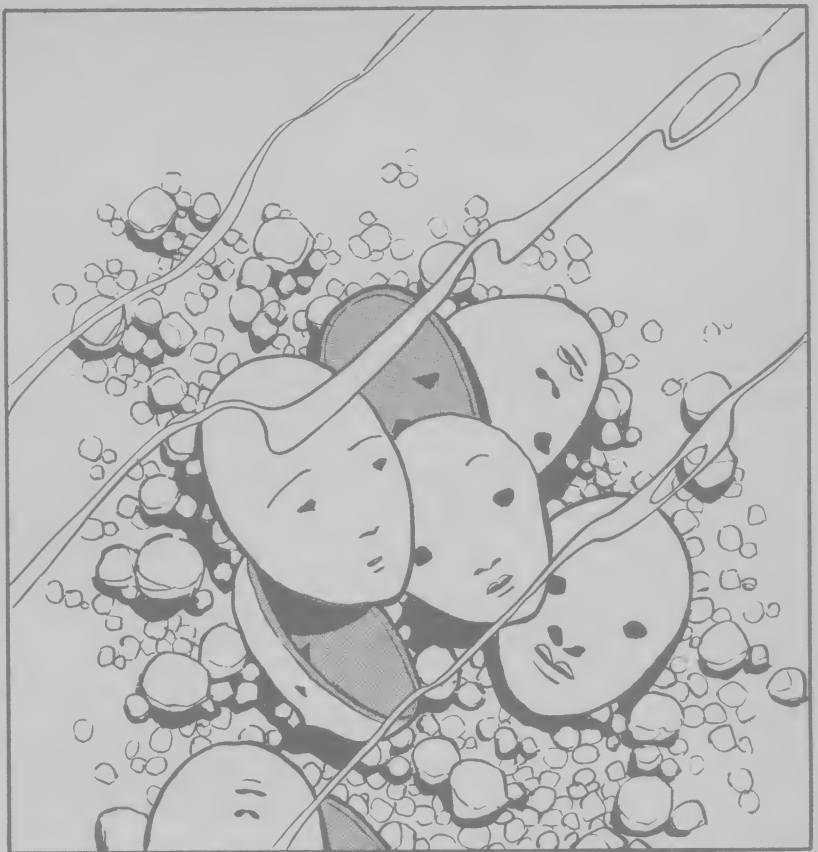
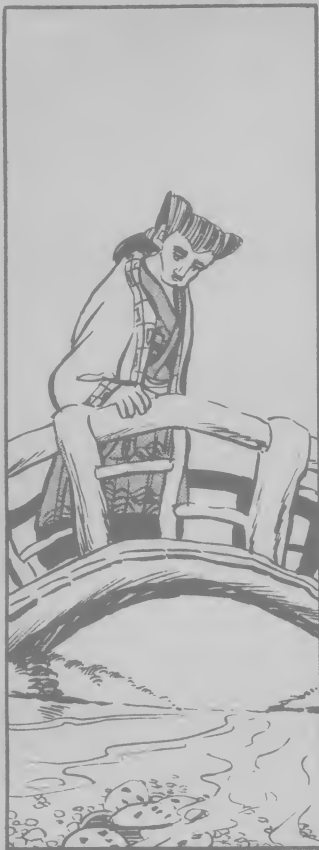
もう
勘弁してくれ!!
……

遂に
堪えきれず
大そうの金を
つねに与えて
家を出てくれるよう
頼んだ

助座は以前のように
また一人で暮した

美しかった頃の
つねを
想い浮べながら…

ぽちゃん
ぽちゃん
……つね……

あ!!

つねと陶太は
その金で
じいさんと三人
幸福に暮したと…

完